

## 抗アレルギー薬の処方動向の分析 内服薬の種類による処方選択の傾向の違いが明らかに

日本調剤グループで情報提供・コンサルティング事業を行う株式会社日本医薬総合研究所（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：橋爪 敦弘、以下：日本医薬総合研究所）は、独自に運用する「月次処方データサービス RI-CORE」をもとに、医薬品市場の処方傾向変化を分析してきました。今回は季節を代表する疾患として「花粉症」を題材に、抗アレルギー薬の処方動向について分析を行いました。

対象期間： 2020年1月～2023年6月

対象店舗： 対象期間内に開局中の日本調剤グループの全薬局（752店舗、2023年7月時点で閉局した店舗を含む）

対象薬剤： 薬効分類 449 その他のアレルギー用薬のうち、第2世代抗ヒスタミン薬に該当する医薬品（内服のみ）

使用データ： 月次処方データサービス RI-CORE

### 1. 抗アレルギー薬 処方せん枚数の推移

2020年以降に応需した抗アレルギー薬を含む処方箋の割合（応需枚数ベース）を、年代別に Fig. 1 に示します。各年代で、スギ・ヒノキ花粉の飛散量が増える3月前後に抗アレルギー薬の処方が増える傾向が見られます。特に5歳～59歳までの年代では花粉の飛散時期にピークが顕著に表れています。また、14歳以下の年代では、9月前後にも抗アレルギー薬の処方割合のピークが見られました。この時期は喘息が悪化しやすい時期であり、抗ヒスタミン薬のほか、抗ロイコトリエン薬の処方にも同様の伸びが見られました（Fig.省略）。一方、75歳以上の後期高齢者においては、季節による処方割合の変化は見られませんでした。

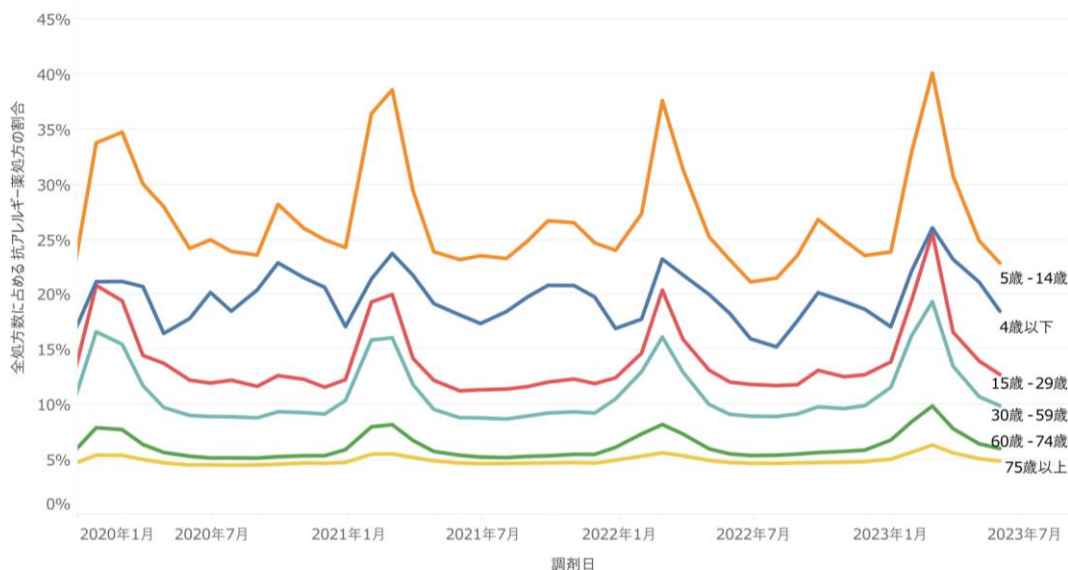


Fig. 1 抗アレルギー薬を含む処方箋の割合の推移（年代別）

## 2. 抗アレルギー薬の種類ごとの服薬状況

続いて、抗アレルギー薬の種類ごとの服薬状況を集計しました。スギ花粉が飛散する時期（1-3月）に抗アレルギー薬が新規処方された患者において、処方された医薬品の服薬継続率を医薬品成分別に集計しました（Fig. 2）。

服薬継続率は、服薬開始から7日の時点で薬の成分による差が現れました。レボセチリジンは服薬継続率が比較的大きく低下していますが、これは特に小児の風邪に対してレボセチリジンのシロップ剤が短期間処方されることが多いためと考えられます。一方、エピナスチンは服薬継続率の低下が遅く、長期間続けて服用されやすい傾向にあることが分かりました。

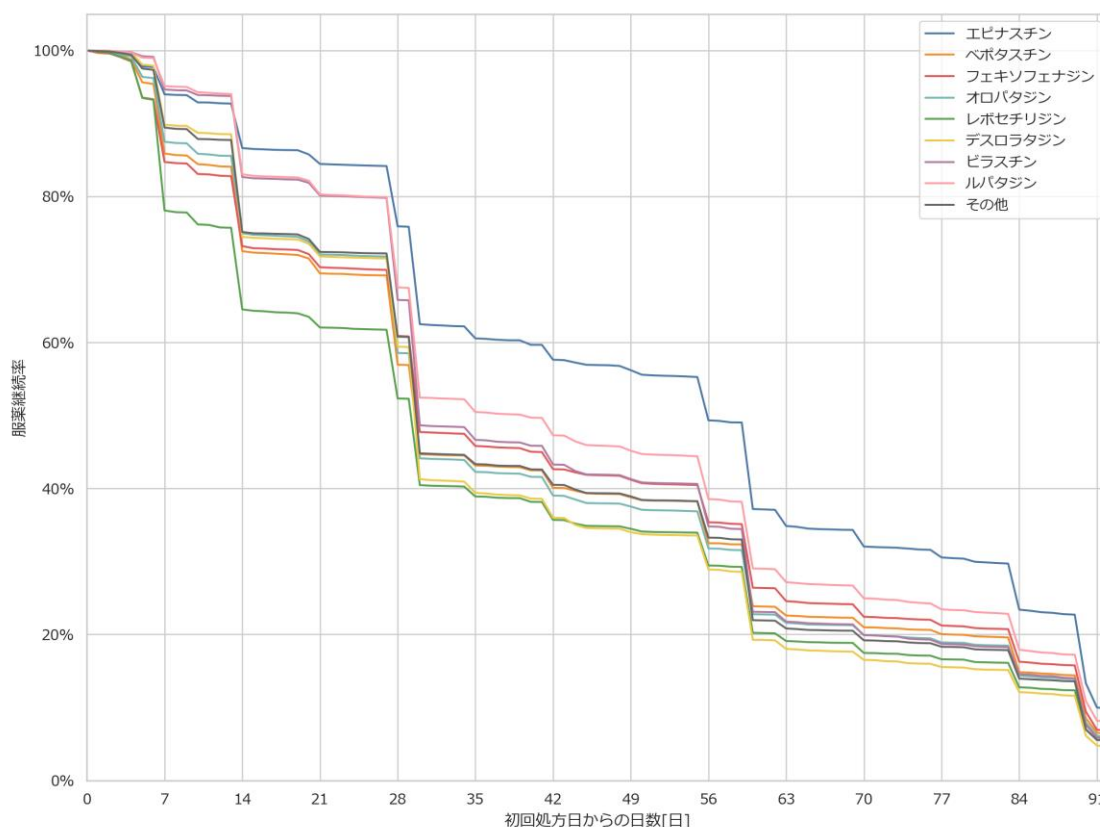


Fig. 2 抗アレルギー薬の種類ごとの継続率

### 3. 抗アレルギー薬の種類ごとの動向

最後に、同一患者における薬剤選択の推移について分析を行いました。スギ花粉が飛散する時期（1-3月）に抗アレルギー薬が新しく処方された患者でかつ薬剤の切り替えがあった患者を対象として分析した結果を Fig. 3 に示します。フェキソフェナジン、デスロラタジンでは、切り替え前の数量が多く、最初の薬剤として選択されやすい傾向にあります。逆にオロパタジン、ピラスチン、ルパタジンは切り替え後の数量が多く、薬剤変更時に選択されやすい傾向が見られました。

Fig. 2 において服薬継続率の低下が遅かったエピナスチンについては、薬剤の切り替え患者数が比較的少ない結果となり、最初に処方された患者がそのまま継続して服用しやすい傾向にあると考えられます。

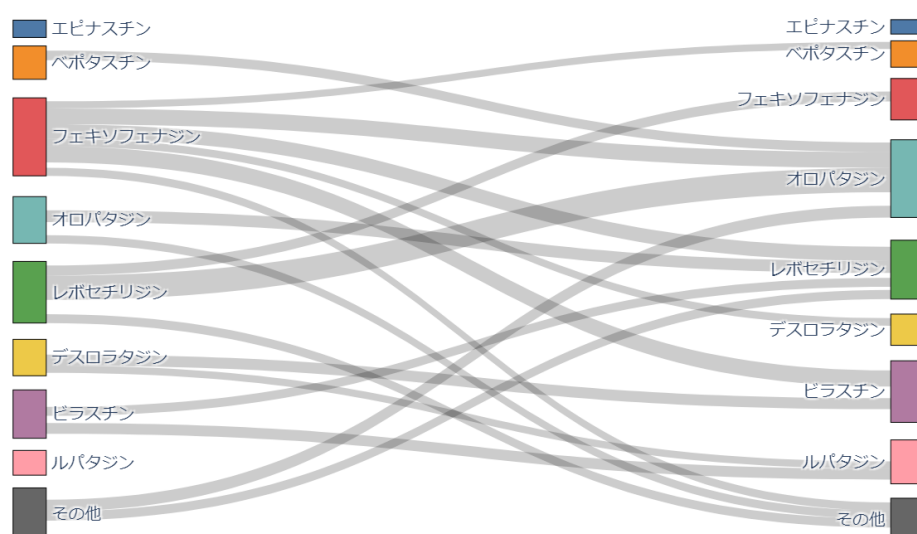


Fig. 3 抗アレルギー薬の薬剤選択の推移（左：切り替え前、右：切り替え後）  
※灰色の線は、切り替え患者数が多かった上位 20 パターンの切り替えを示しています。

今回、当社独自の月次処方データサービス RI-CORE を用いて抗アレルギー薬の処方動向の分析を行い、その一例を紹介しました。日本医薬総合研究所では今後も、さまざまな薬効群の処方動向について分析を行い、発信してまいります。

【RI-CORE について】 [https://www.jpmedri.co.jp/service/medical\\_information/ri-core/](https://www.jpmedri.co.jp/service/medical_information/ri-core/)  
日々収集される調剤情報を月次または週次で集計する情報サービスです。お客さまのニーズに応じてカスタマイズした多彩なテンプレートを作成し、自在な分析機能により目的に合わせた分析結果を定期的にお届けしています。

【株式会社日本医薬総合研究所について】 <https://www.jpmedri.co.jp/>  
日本調剤グループ各社を通じて培った医療情報資源を基に、医薬業界の健全なる発展、成長に寄与し、国民生活の向上に資する価値ある情報サービスを提供するために 2012 年 1 月に発足しました。製薬・ヘルスケア企業、医療機関・保険者さま・保険薬局からのさまざまなニーズ

に因るため、処方箋情報・レセプト情報をはじめとする各種医療ビッグデータを基盤に、「医療の質の向上」、「医療費の適正化」、「国民の健康寿命の延伸」といった日本全体の医療課題に貢献してまいります。

**【日本調剤グループについて】** <https://www.nicho.co.jp/brand/>

日本調剤グループは、すべての人の「生きる」に向き合う、という揺るぎない使命のもと、調剤薬局事業を中核に、医薬品製造販売事業、医療従事者派遣・紹介事業、情報提供・コンサルティング事業を展開する、多様な医療プロフェSSIONALを擁したヘルスケアグループです。医療を軸とした事業アプローチによる社会課題解決を通じて持続可能性を追求し、すべての人の「生きる」に貢献してまいります。

**【本レポートに関するお問い合わせ先】**

株式会社日本医薬総合研究所

TEL : 03-6810-0812 FAX : 03-5288-8692

E-mail : [soken-info@jpmedri.co.jp](mailto:soken-info@jpmedri.co.jp)

本レポートに関わる無断での引用、転載及び複製は禁止します。

当社は、本レポートの内容および閲覧者が本レポートを通じて得る情報等について、その正確性、完全性、網羅性、有用性、最新性、適切性等、その内容について何ら法的保証をするものではありません

本レポートの閲覧者による、これらの情報の利用により、万一何らかの損害や不利益等が生じても、当社は一切の責任を負いません。